

2019 年度ぶどうの実障害児通所支援事業自己評価

1 職員による自己評価

管理者、児童発達支援管理者、児童指導員、保育士等 6 名が回答

(1) 環境・体制整備

- ・療育室が狭い（30㎡）。
- ・3階ホール（約105㎡）での活動を含めると適切なスペースになる。
- ・職員数は基準どおりに配置している。

(2) 業務改善

- ・業務改善に対して常勤職員と嘱託職員とで意識に差があり、参画もできていない。
- ・ホームページで公開しているが、周知されていないことがわかった。
- ・第三者評価は来年度実施を予定している。

(3) 適切な支援の提供

- ・支援サービス計画、活動プログラムの立案、実際の支援、その後のモニタリングでは、概ね適切に支援できている。
- ・一部変則勤務や時間差での出勤等のため、十分な打ち合わせができていない。

(4) 関係機関や保護者との連携

- ・旭区自立支援協議会こども連絡会の役員を務め、情報収集や相互理解を図っている。
- ・小学生年齢の児童が多く、卒業後を踏まえた係わりはない。
- ・障害のない子どもたちとの交流はほとんどない。

(5) 保護者への説明責任等

- ・父母の会等、保護者同士の連携はニーズもないため支援していない。

(6) 非常対応

- ・入所部門と兼務している看護師が医療面での緊急対応をしている。
- ・緊急時に併設されている入所施設の職員の応援を依頼できる。

2 保護者による評価

(1) 環境・体制等

- ・療育室は狭いが、活動スペースとしては広いホールがある。
- ・職員の専門性について、物足りなさを感じている。

(2) 適切な支援の提供

- ・子どもたちの気持ちの添った支援をしている。
- ・室内、屋外、運動などいろいろなプログラムを提供している。
- ・個別プログラムなどが前年度より物足りない。

(3) 保護者への説明等

- ・概ね、対応には問題がない。

(4) 非常時の対応

- ・マニュアルの存在を知らない保護者もいた。

(5) 満足度

- ・学校を休んでも、デイサービスには行きたいと言っている。
- ・あまり行きたがらない子どももいる。

3 事業所内での分析

(1) 事業所と保護者との共通評価

- ・療育室が狭い。
- ・ホールや公園など活動できる場所は用意されている。
- ・長く社会福祉法人として地域で障害児者支援事業を展開してきており、その専門性や地域交流、事業展開に期待している。
- ・保護者への負担を配慮している。

(2) 評価が相違している点

- ・保護者の中には、その専門性において物足りなさを感じている。
- ・職員の退職や異動もあり、専門性は必ずしも確保されていない。
- ・保護者の悩み、困り感、不安、不満等を十分に把握しておらず、応えていない。

4 事業所の強み

- ・入所施設、短期入所事業、日中一時支援等を実施しており、総合的な支援を提供できる。
- ・必要なときに必要な職員の応援を補充できる。
- ・法人としてのスケールメリットを活かすことができるが、実際には活かしきれていない。
- ・長い法人としての歴史が地域の根付いており、様々に意見や苦情等が地域から入る。
- ・施設設備、備品等を施設全体で共有できる。
- ・入所児童との交流が図れる。

5 事業所の改善点

- ・現状の小学生までの受入れから、中学生、高校生の受入れを今後も継続的に検討する。
- ・学習面、運動面、音楽的なことなど、より特化したサービスの提供について検討する。
- ・送迎車両の運転や、食事、おやつを提供など支援の周辺の改善要否を検討する。

6 事業所の改善の取り組み

(1) 中学生・高校生の受入れのために

- ・現状の療育室、活動スペースでは受け入れは難しい。
必要な活動場所を外に求めることになるが、運営上の収支を慎重に検討する。
法人中期計画（5か年）では、外部に一定の場所を確保し受け入れていくことになって

いる。

- ・支援のための十分な職員が確保できていない。

正規職員は法人採用で確保しているが、他事業所（特に入所型施設）への配置が優先される。法人内では妊娠中の女性職員や育児休暇明けの職員、育児短時間勤務の職員など、夜勤を含む交代勤務ができない職員が通所型施設に配置されることが多い。

嘱託職員の応募も近年は非常に少なく、夕方5～7時までの勤務には、さらに困難が伴ってくる。

(2) 特化したサービスの提供

- ・発達障害児のための個別学習、水泳教室、音楽塾、英語塾などのニーズに応えるか。

社会福祉法人として運営している当所にその使命があるのか、という検討は必要と考えている。障害児通所事業としての本来の使命は、様々な家庭事情の中で、必要な療育を受けられない子ども、放課後公園等で障害のない子どもたちと一緒に遊ぶ機会の持てない子どもなどを対象とした、居場所作りであることを鑑み、原点にこだわった支援を提供する。

(3) 地域に根差した事業展開のために

- ・地域での存在価値をどう高めていくか

法人としては入所施設を中心に事業展開してきたため、その対象者は横浜市内全域、県内、県外にまで及んできた。したがって、地域住民が直接当法人事業を利用する機会は少ないのが現状となっている。その中で通所支援事業をすることで、地域に住む障害児者が利用できるようになったので、今後さらに、この流れを進めていく必要がある。

7 自己評価の感想

- ・来年度に第三者評価を予定しており、自己評価との相違を十分に検討していきたい。
- ・昨年度と比較での保護者からの意見もあり、職員の専門性でのとらえ方に違いがあった。

2020年3月

事業所名 社会福祉法人白根学園 ぶどうの実
担当者 施設長 多田 純夫

2019年度ぶどうの実放課後等デイサービス自己評価表(事業者分集計表)

| | | チェック項目 | はい | どちらともいえない | いいえ | ご意見 |
|----------|---|--|----|-----------|-----|---|
| 環境・体制整備 | ① | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか | 1 | 4 | 1 | 療育室のみではなく、3階ホール(約105㎡)等も利用している。 |
| | ② | 職員の配置数は適切であるか | 5 | | 1 | |
| | ③ | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか | 6 | | | |
| 業務改善 | ④ | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか | 3 | 2 | | 無回答1名 嘱託職員までは参画できていない。 |
| | ⑤ | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか | 5 | | | 無回答1名 |
| | ⑥ | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか | 2 | 1 | 2 | 無回答1名 |
| | ⑦ | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか | 1 | 1 | 3 | 無回答1名 来年度第三者評価を受審予定。 |
| | ⑧ | 職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか | 3 | 3 | | |
| 適切な支援の提供 | ⑨ | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか | 6 | | | |
| | ⑩ | 子どもの適応行動の状況を因るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか | 5 | | | 無回答1名 |
| | ⑪ | 活動プログラムの立案をチームで行っているか | 3 | 2 | | 無回答1名。児童発達管理責任者が立案し、全体で共有している。 |
| | ⑫ | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか | 6 | | | |
| | ⑬ | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか | 4 | 2 | | |
| | ⑭ | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか | 5 | 1 | | |
| | ⑮ | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか | 3 | 2 | 1 | |
| | ⑯ | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか | 3 | 1 | 1 | 無回答1名 |
| | ⑰ | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか | 4 | 1 | | 無回答1名。記録はできているが、検証改善ができていないときもある。 |
| | ⑱ | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか | 5 | | | 無回答1名。 |
| | ⑲ | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか | 2 | 2 | 1 | 無回答1名。ガイドライン総則どおりに |
| | ⑳ | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか | 3 | 2 | | 無回答1名。 |
| | ㉑ | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか | 5 | 1 | | |
| | ㉒ | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか | 1 | 3 | 1 | 無回答1名。必要があれば主治医と連絡を取るが、通常は常勤看護師が対応している。 |

| | | | | | | |
|--------------|----------------------------|---|---|---|---|---------------------------------------|
| 関係機関や保護者との連携 | ⑳ | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか | 1 | 4 | | 無回答1名。 |
| | ㉑ | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか | 1 | 3 | 1 | 無回答1名。 これまで該当者がいない。 |
| | ㉒ | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか | 1 | 3 | 1 | 無回答1名。 |
| | ㉓ | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか | 1 | 2 | 3 | |
| | ㉔ | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか | 5 | | | 無回答1名。 |
| | ㉕ | 日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか | 6 | | | |
| | ㉖ | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか | 1 | 3 | 1 | 無回答1名。 |
| 保護者への説明責任等 | ㉗ | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか | 4 | 1 | | 無回答1名。 |
| | ㉘ | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか | 4 | 1 | | 無回答1名。 |
| | ㉙ | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか | | 3 | 2 | 無回答1名。保護者同士の連携については、積極的に支援していない。 |
| | ㉚ | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | 4 | 2 | | |
| | ㉛ | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか | 6 | | | |
| | ㉜ | 個人情報に十分注意しているか | 6 | | | |
| | ㉝ | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか | 6 | | | |
| 非常時等の対応 | ㉞ | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか | 5 | | 1 | |
| | ㉟ | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか | 3 | 3 | | 緊急時の対応については、利用契約時に文書で周知している。 |
| | ㊱ | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか | 6 | | | |
| | ㊲ | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか | 3 | 3 | | 事業所内では研修ができていない。 |
| | ㊳ | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか | 1 | 3 | 1 | 無回答1名。身体拘束する可能性があることは、重要事項説明書で説明している。 |
| | ㊴ | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか | | 4 | 1 | 無回答1名。現在アレルギー対応の必要な児童はいない。 |
| ㊵ | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか | 2 | 3 | 1 | | |

2019年度ぶどうの実放課後等デイサービス自己評価表(保護者分集計表)

| | | チェック項目 | はい | どちらともいえない | いいえ | ご意見 |
|----------|---|--|----|-----------|-----|---|
| 環境・体制整備 | ① | 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか | 12 | 1 | | 療育室は狭いが、ホールなどで広々遊べるので良い。 |
| | ② | 職員の配置数や専門性は適切であるか | 11 | 2 | | 療育センターとの代わりでは足りない。年度初めに職員紹介のプリントがあるとよい。 |
| | ③ | 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか | 13 | | | |
| 適切な支援の提供 | ④ | 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか | 12 | 1 | | 療育面では個々の面が足りない。 |
| | ⑤ | 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか | 12 | 1 | | 今年は前年に比べると物足りない。 |
| 保護者への説明等 | ⑥ | 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか | 13 | | | |
| | ⑦ | 日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解できているか | 13 | | | |
| | ⑧ | 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか | 11 | 2 | | 療育に対する不安、障害児の育児に対する助言は足りていないと思う。なかなか話すタイミングを作れない。 |
| | ⑨ | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | 11 | 2 | | 苦情によって方針が変わったりするのはどうなのか。家庭によって違うこともあり、手前で何かできないものか。 |
| | ⑩ | 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか | 12 | 1 | | |
| | ⑪ | 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか | 13 | | | |
| | ⑫ | 個人情報に十分注意しているか | 13 | | | |
| 非常時等の対応 | ⑬ | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか | 11 | 2 | | よくわからない |
| | ⑭ | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われているか | 13 | | | |
| 満足度 | ⑮ | 子どもは通所を楽しみにしているか | 12 | 1 | | 子どもはいつも楽しんでいるようです。 |
| | ⑯ | 事業所の支援に満足しているか | 12 | 1 | | |

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供するうえでの留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。